

7. その他関連資料

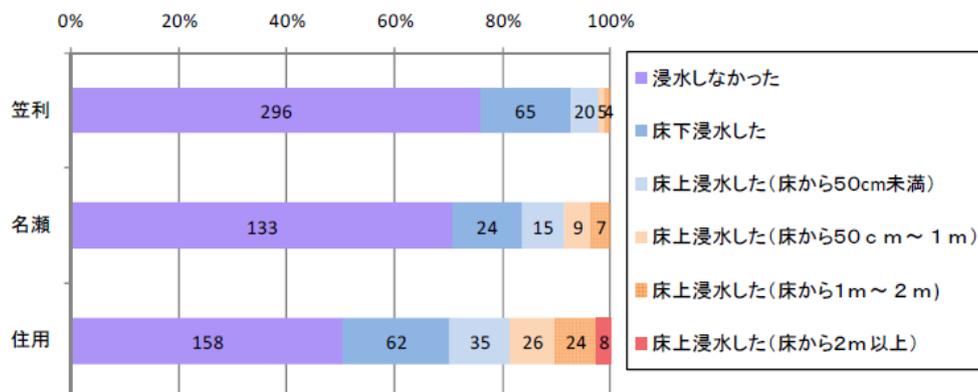
(1) アンケート結果

奄美豪雨災害について財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センターが平成 23 年 10 月にアンケートを実施した。最も被害の大きかった住用地区は全世帯にあたる 743 世帯を対象とした。

また、笠利地区は浸水被害の比較的大きかった地区（赤木名里，中金久，外金久，川上，屋仁，佐仁，笠利，宇宿，用安，喜瀬，手花部）の全世帯 1,200 世帯を対象とし、名瀬地区は浸水被害の比較的大きかった地区（大字名瀬勝，知名瀬，小湊，朝戸，安勝町）の全世帯 943 世帯を対象とした。

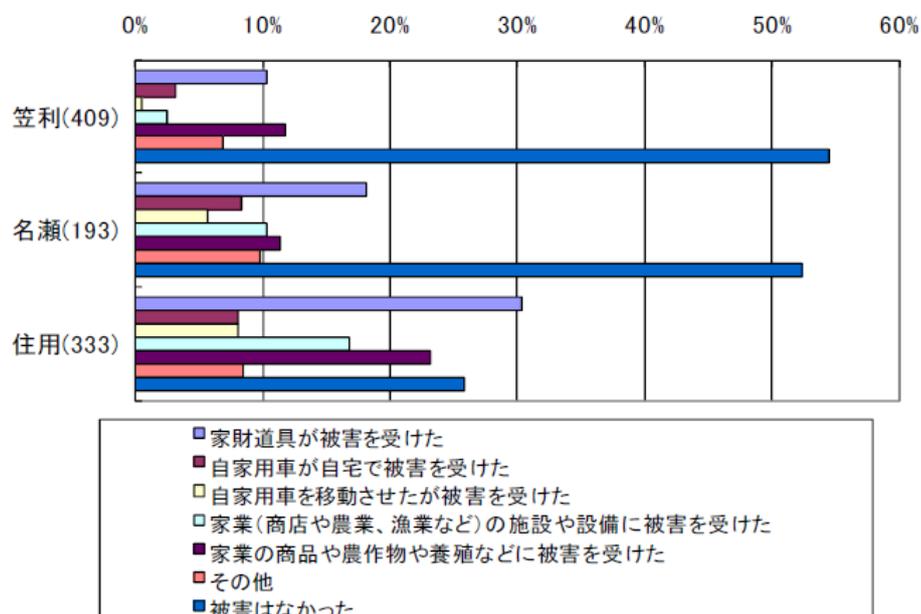
このうち有効回収票として 935 票（住用 333 票，笠利 409 票，名瀬 193 票）を得ている。

問 1. 10 月 20 日の水害で、あなたの住宅は浸水被害を受けましたか。



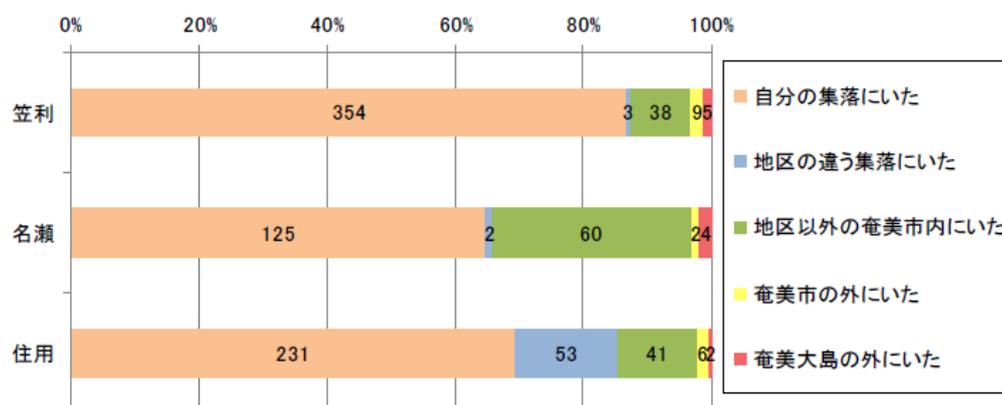
浸水被害を受けた回答者世帯は、住用地区では約 5 割，名瀬および笠利地区では 3 割程度であった。

問 2. そのほかに、どのような被害がありましたか。(複数可)



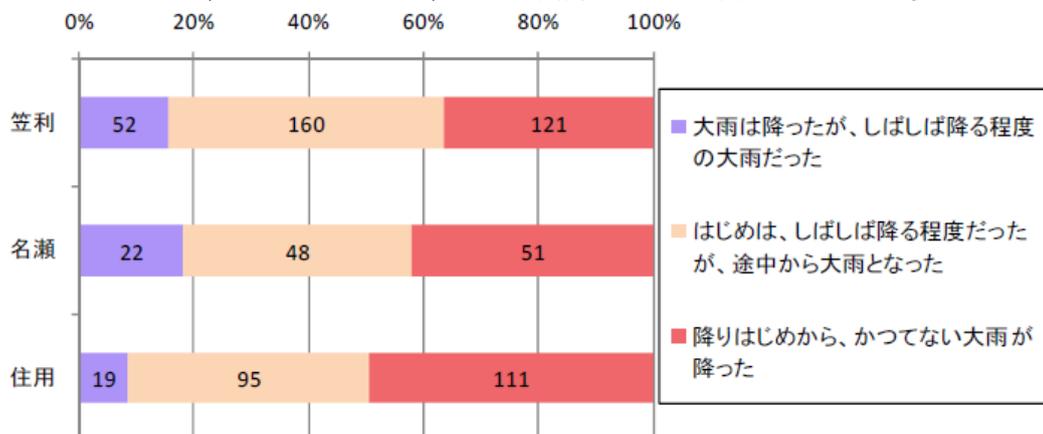
家財などに、なんらかの被害を受けた回答者世帯は、住用地区では約 7 割、名瀬および笠利地区では約半数程度であった。

問 3. 水害のおきた 10 月 20 日、あなたはどこにいましたか。



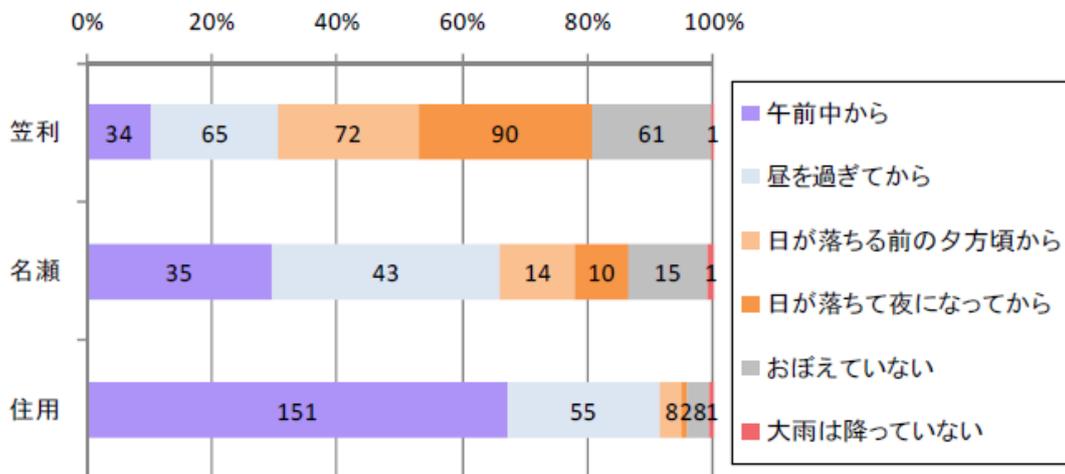
水害時に、自分の集落にいた回答者は、住用地区および名瀬地区では 6 割強を占め、笠利地区では 8 割強に及ぶ。また、回答者の 9 割以上は、奄美市内にいた。

問 4. 10月20日、あなたのいた、その場所では雨は降りましたか。



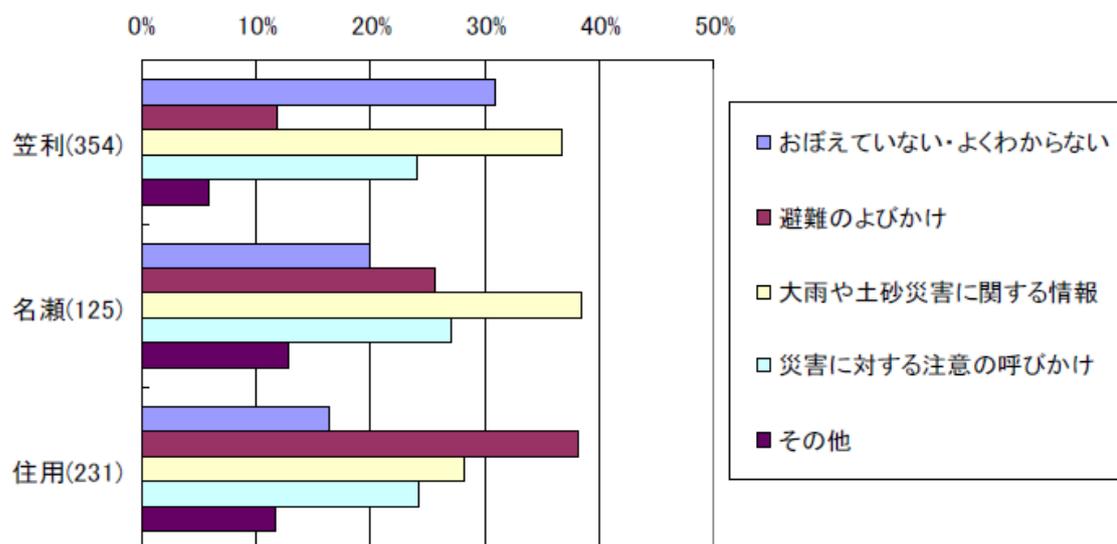
水害時に、自集落にいた回答者に、大雨の様子を確認したところ、降りはじめからかつてない大雨であったとする者が約4割を占め、途中から大雨となったとする回答者をあわせると8割を超える。

問 5. かつてない大雨になったと気づいたのは、何時頃ですか。



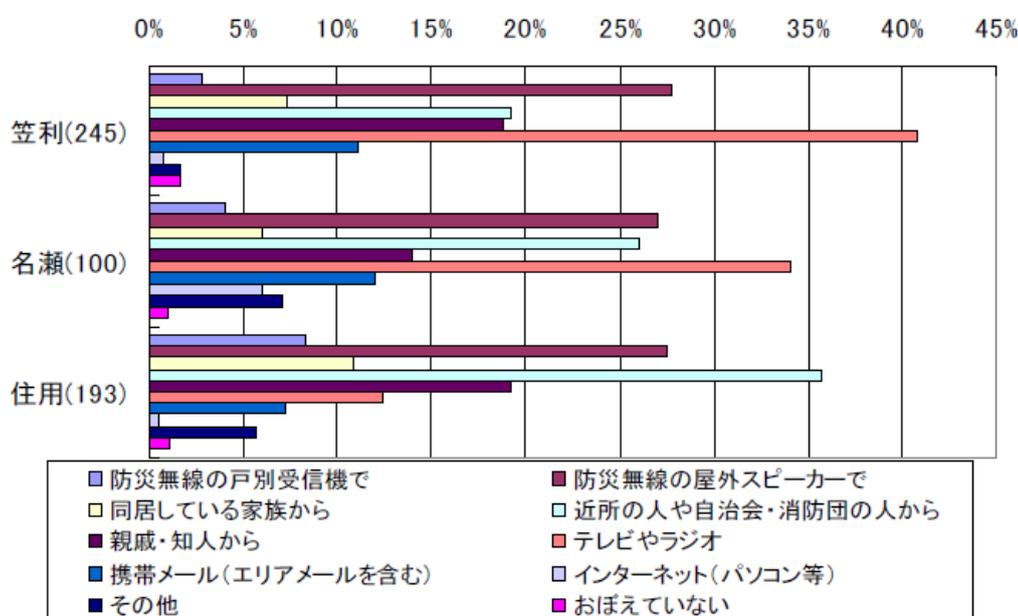
大雨を認識した時刻は、南部の地域ほど早い時刻を挙げる者が多い。南に位置する住用地区では、午前中からとする回答者が6割を超える一方で、北に位置する笠利地区では、夜になってからとする回答者がもっともおおく約3割におよぶ。

問 6. 10月20日に、あなたは、どのような情報を見聞きしましたか（複数可）



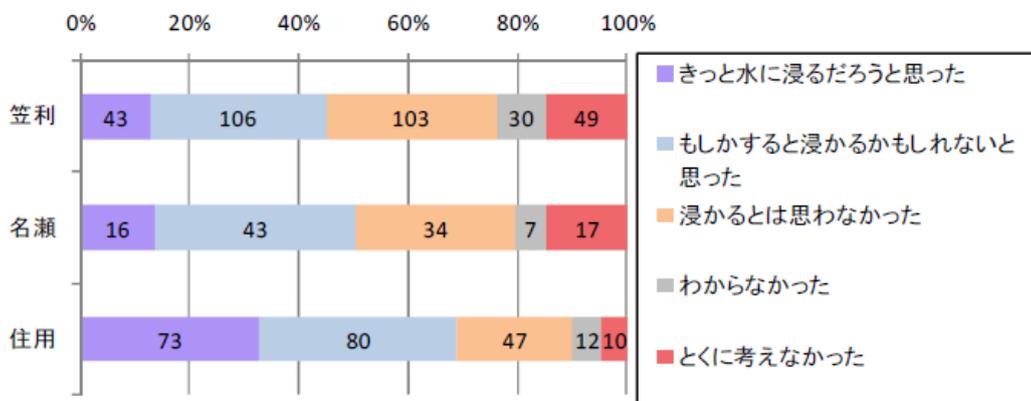
避難のよびかけを聞いた回答者は、住用地区では4割弱におよぶ。とくに情報を聞いた覚えがない、あるいはよくわからないとする者は住用地区および名瀬地区の回答者では約2割にとどまり、笠利では3割程度である。

附問 6-1. (問 6 で「2」「3」「4」「5」とお答えの方に、お聞きします) あなたは、そうした情報をどこから知りましたか。(複数可)



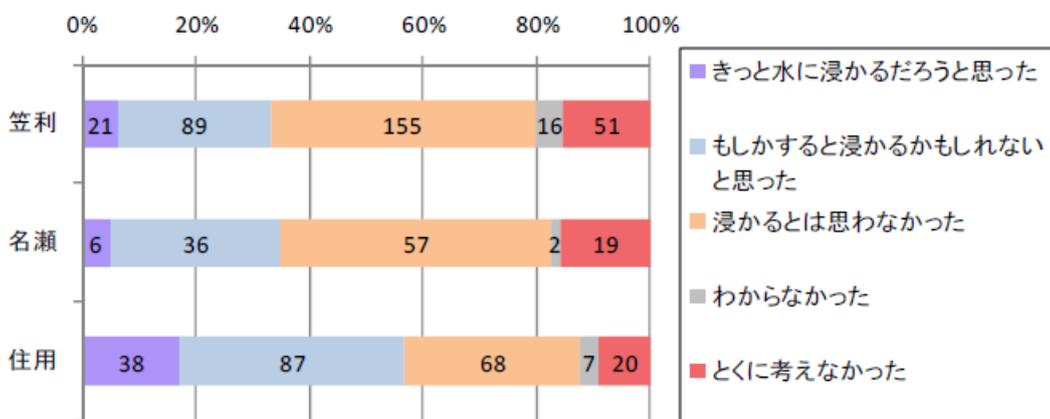
避難のよびかけなどの情報を聞いた媒体としては、笠利地区および名瀬地区では、テレビやラジオがもっとも多く、これに防災無線が次ぐ。これに対して、住用地区では、近所の人や自治会・消防団など人が最も多く、これに防災無線が次ぐ状況であり、テレビ・ラジオは多くない。

問 7. 大雨が降っていた頃、集落が水に浸かるかもしれないと思いましたか。



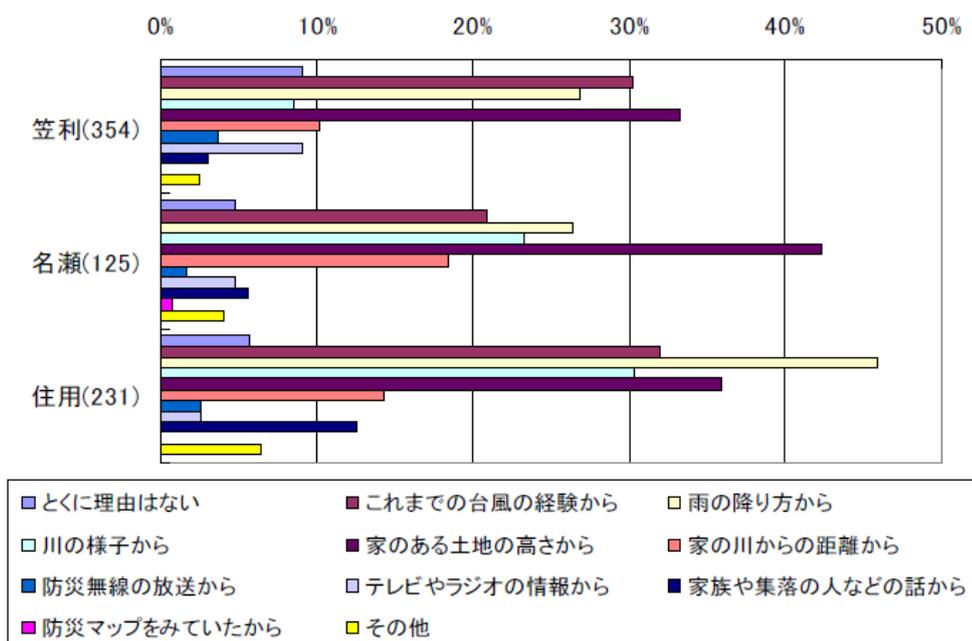
大雨が降っていた頃、集落が「きっと水に浸かるだろう」あるいは「浸かるかもしれない」と思ったものは、住用地区では約 7 割におよび、笠利および名瀬地区でも約 5 割を占めた。

問 8. 自分の家が浸水する可能性があると思いましたか。



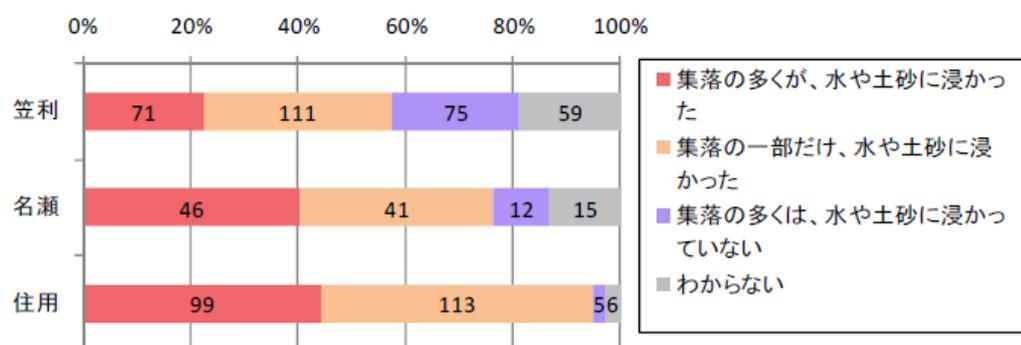
自分の家まで「きっと水に浸かるだろう」あるいは「浸かるかもしれない」と思ったものは、住用地区で約 6 割におよび、笠利および名瀬地区でも 4 割弱に及んだ。

問 9. そのように思ったのは、どうしてですか。(複数可)



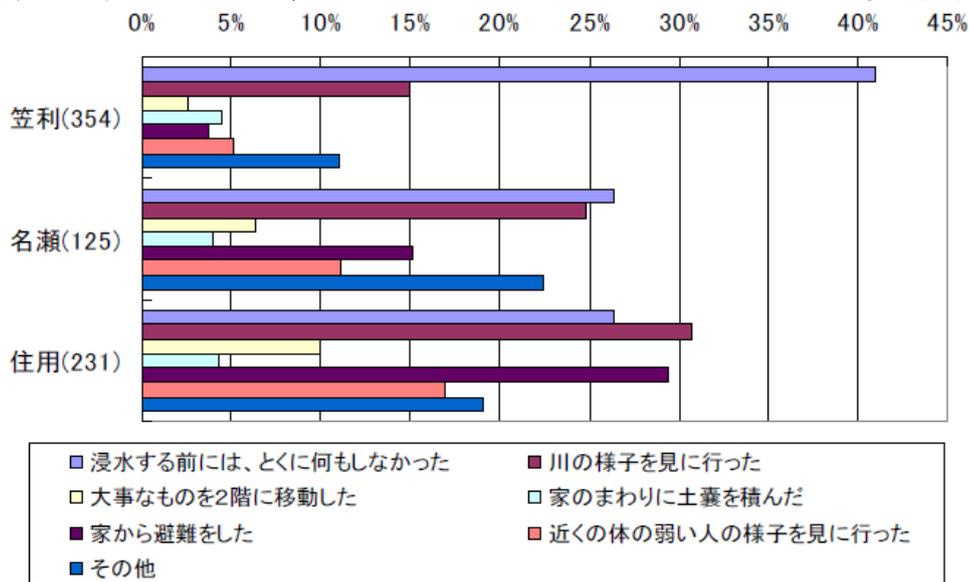
浸水に関する予期の背景について尋ねると、浸水を予期した者の多い住用地区では「雨の降り方」を挙げる者が多い一方で、笠利地区および名瀬地区では、これまでの台風経験や、土地の高さを挙げる者が多かった。

問 10. あなたの集落では、水や土砂に浸かった場所がありますか。



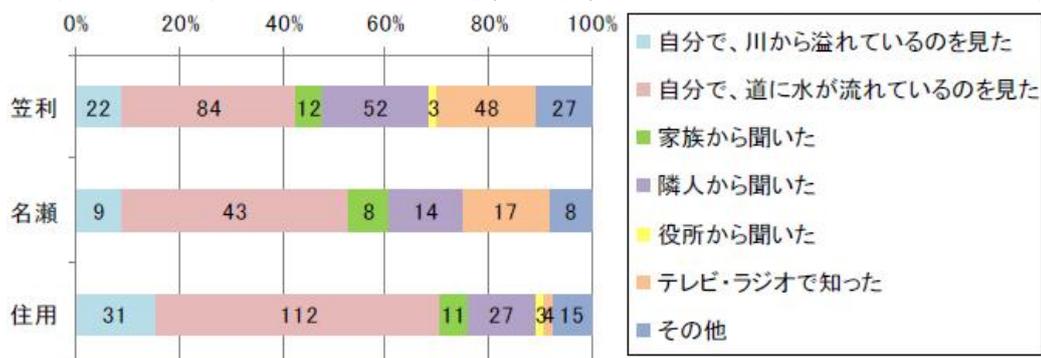
集落の多くあるいは一部が水に浸かったとする回答者は、住用地区では約 9 割におよび、名瀬地区では約 8 割、笠利地区でも約 6 割を占める。

問 11. 集落が浸水する前に、あなたはどのようなことをしましたか。(複数可)



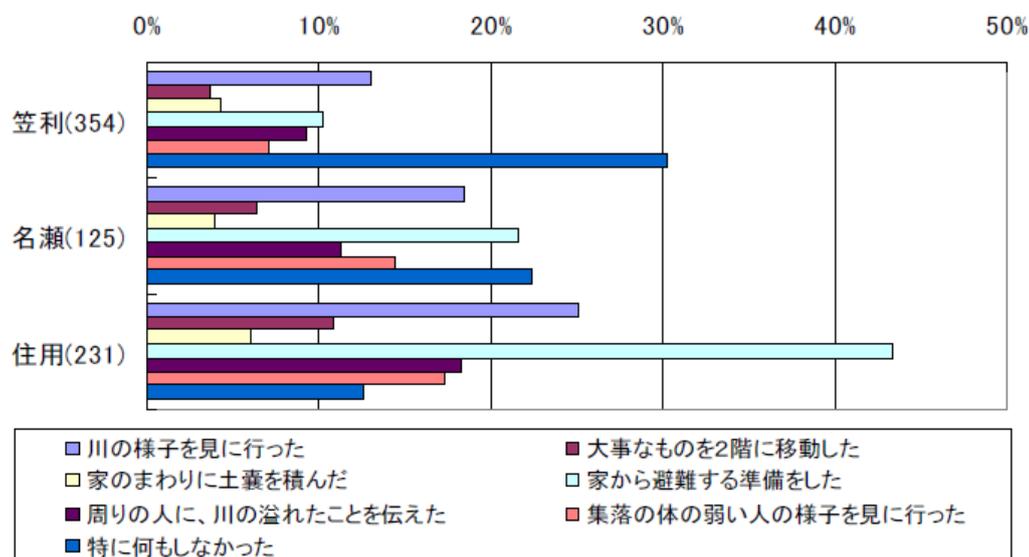
集落の浸水前に行った行動を尋ねると、笠利地区および名瀬地区では浸水前に何もしなかったとする者がもっとも多い。これに対して、住用地区では、川の様子を見に行った者および避難をした者が約3割で最も多い。

問 12. 集落が水に浸かり始めたことを、最初、どのようにして知りましたか。



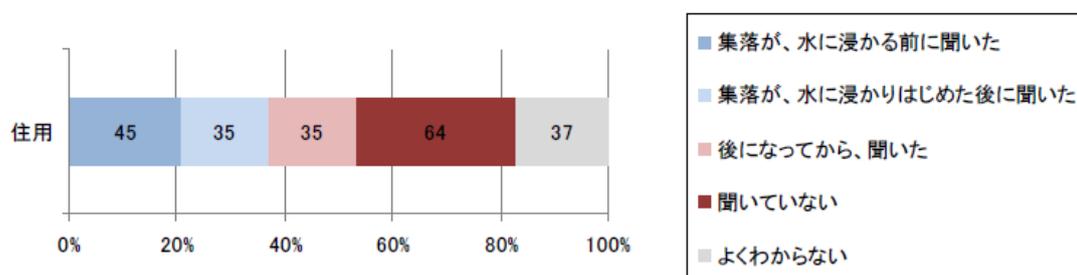
集落への浸水を知った方法としては、いずれの地区でも、自分で道に水が流れているのを見た回答者が最も多く、住用地区では6割におよぶ。なお、笠利地区および名瀬地区では、テレビ・ラジオで知ったとするものも多く2割を占める。

問 13. 集落が水に浸かり出したことを知った後、あなたはどのようなことをしましたか。(複数可)



集落が水に浸かり出したことを知って行った行動としては、住用地区では避難の準備をはじめた者がもっとも多く約4割に及ぶ。一方、避難の準備をはじめた回答者は笠利地区では1割程度、名瀬地区では2割程度で、いずれの地区も特に何もなかったとする回答者がもっとも多い。

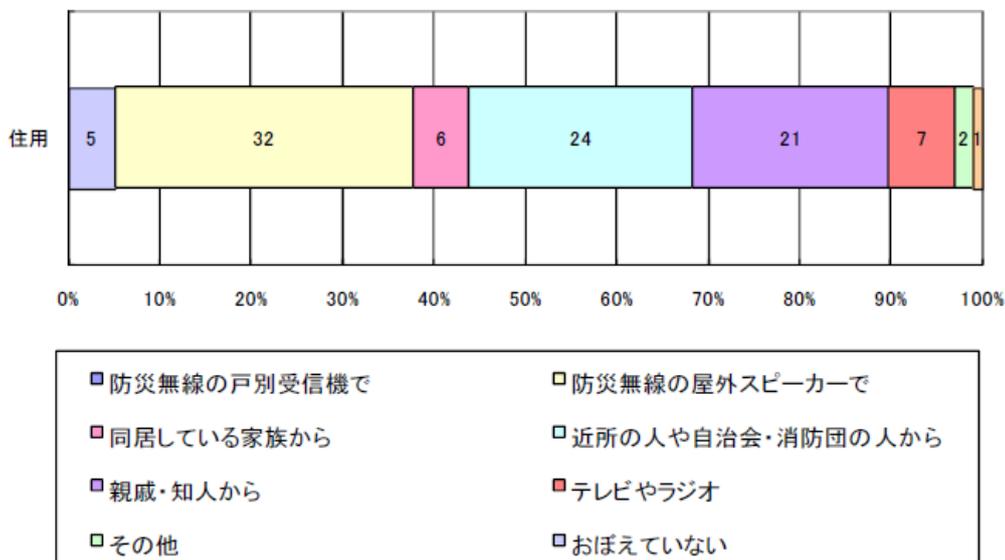
問 14. 住用総合支所では、住用地区に避難勧告を発令しました。あなたは、この避難勧告を聞きましたか。



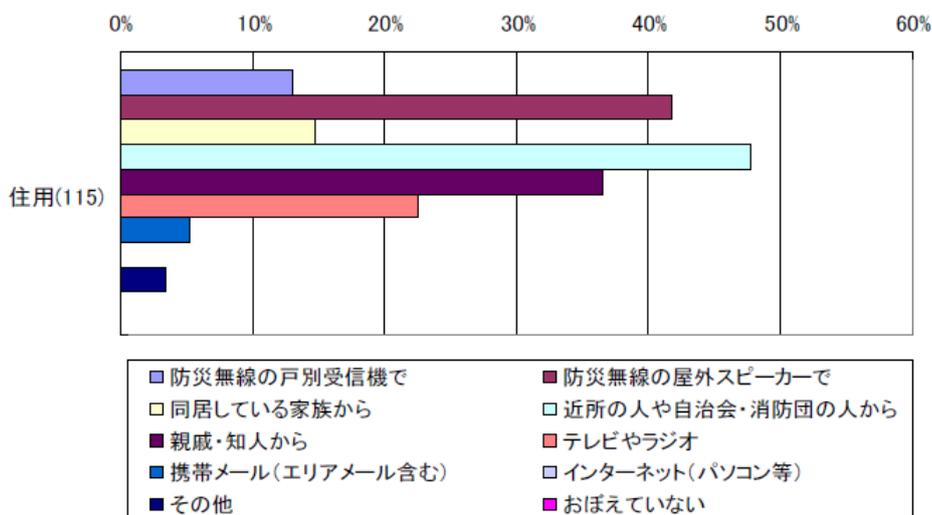
住用地区で発令された避難勧告については、浸水前に聴取していた回答者は約2割、浸かり始めた頃に聞いた者が2割弱であった。

7. その他関連資料

附問 14-1. (問 14 で「1」「2」「3」とお答えの方に) 避難勧告を、どこから聞きましたか。(複数可) そのうち、最初に聞いたのは、どれですか(◎はひとつだけ)

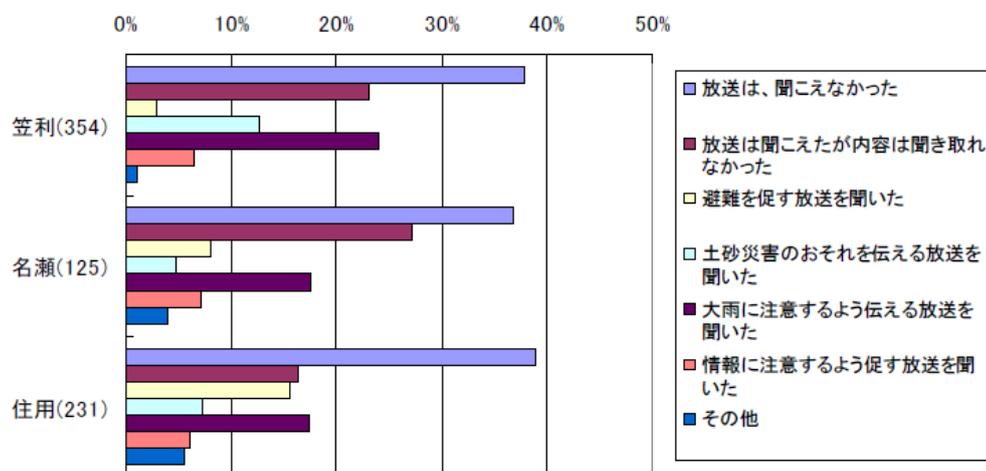


住用地区で発令された避難勧告を最初に聞いた媒体としては、防災無線の屋外スピーカーが最も多く3割強を占める。これについて、近所の人や自治会・消防団あるいは親戚・知人などから聞いた者も多く、あわせて4割強におよぶ。



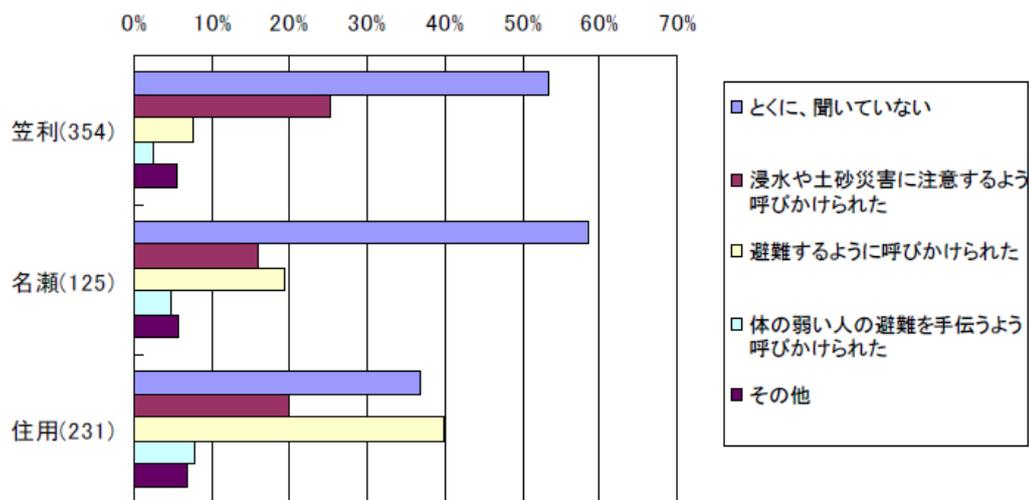
聴取した媒体すべてを尋ねると近所の人や自治会・消防団から聞いたとする者が最も多く、半数近くに及ぶ。これについて防災無線の屋外スピーカーで聞いた者も多く4割に達する。

問 15. あなたは、20 日に、防災行政無線の放送を聞きましたか。(複数可)



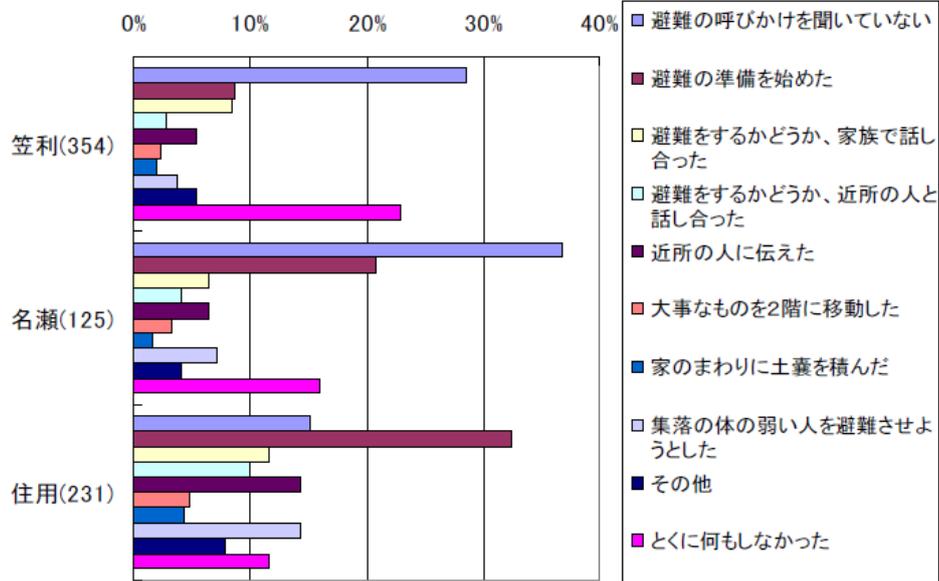
防災無線の聴取状況を尋ねると、放送が聞こえなかった者がいずれの地区でも 4 割近い。また、内容までは聞き取れなかった者も笠利地区および名瀬地区では 2 割を超え、住用地区でも 1 割を超える。

問 16. 自治会長や消防団などの呼びかけを聞きましたか。(複数可)



自治会長や消防団などの何らかの呼びかけを聞いた者は、笠利地区および名瀬地区では約半数、住用地区では 6 割を超える。

問 17. 避難の呼びかけを聞いた後、あなたは何をしましたか。(複数可)



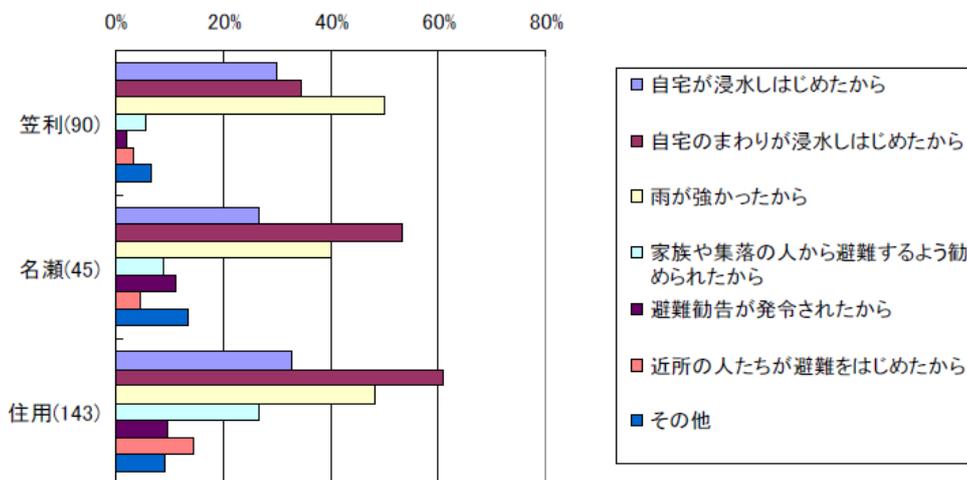
避難の呼びかけを聞いた後の行動としては、避難の準備を始めた者が住用地区では3割を超え、名瀬地区でも2割を超える。笠利地区では、何もしなかった回答者が最も多く2割を占めるが、これについて避難の準備を始めた者および避難について家族で話し合った回答者が多い。

問 18. あなたは、20日に家から避難しようと考えましたか。



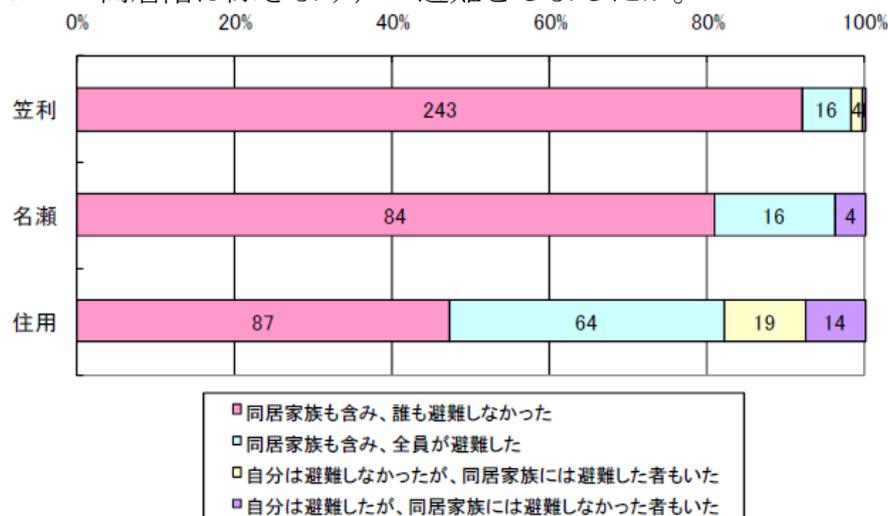
避難をしようとして強くあるいは少し思った回答者は、住用地区では6割を超え、名瀬地区の回答者では4割、笠利地区では3割程度を占める。

附問 18-1. (問 18 で「1」「2」とお答えの方に) 避難をしようと思った理由は何ですか。(複数可)



避難をしようと思った理由としては、自宅のまわりの浸水を挙げる回答者が住用地区と名瀬地区では最も多く過半数に達する。笠利地区では、雨の強さを挙げる者が最も多く約半数を占める。これに対して、避難勧告の発令を挙げるものは少なく、住用地区でも1割に満たない。

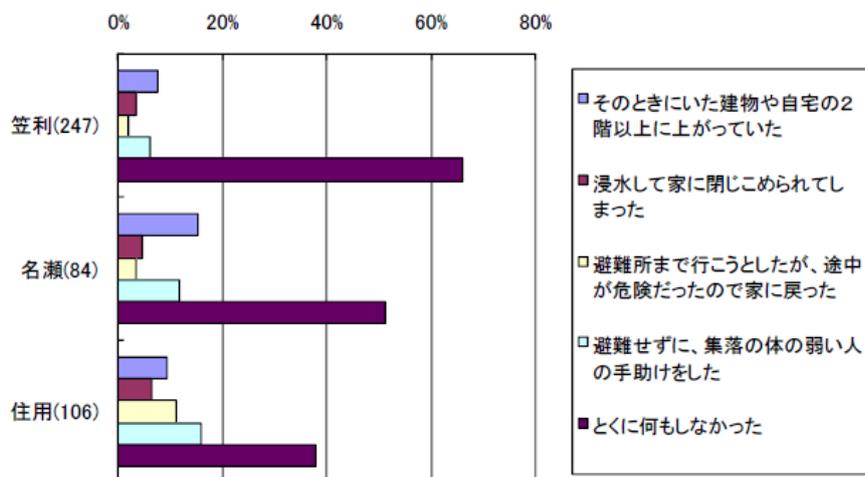
問 19. 大雨の降った 20 日に、あなたのお宅では、避難所などの別の建物（住んでいるマンションの高層階は除きます）へ避難をしましたか。



自宅の建物を離れて避難をした回答者は、住用地区では約 3 割、名瀬地区では約 2 割、笠利地区では約 1 割であった。

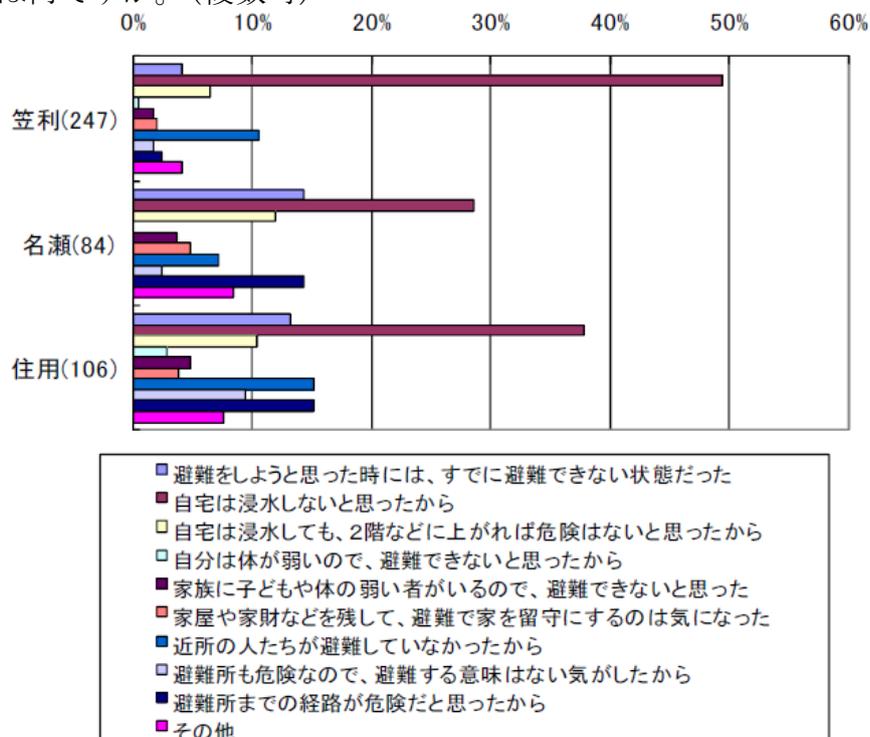
7. その他関連資料

附問 19-1. (問 19 で「1」「3」と答えた方に) あなたが避難しなかった (できなかった) とき, あなたはどのような行動をとりましたか。(複数可)



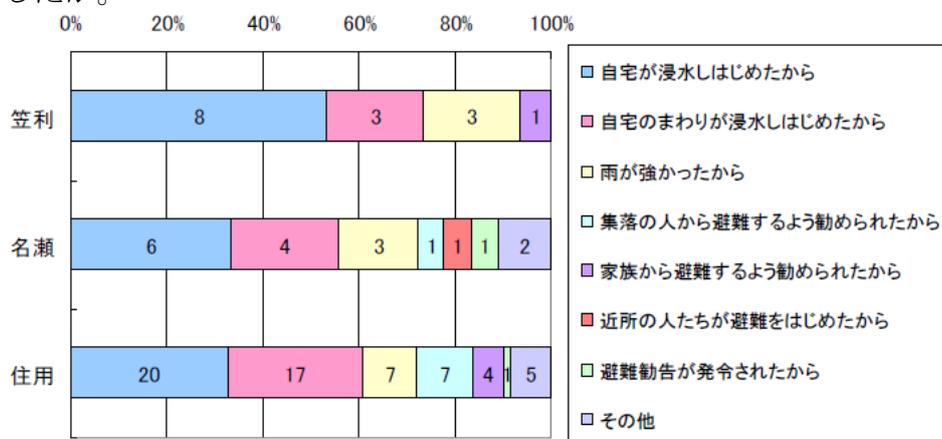
避難をしなかった回答者のうち約 1 割の者は, 集落の体の弱い方の手助けをしていた。

附問 19-2. (問 19 で「1」「3」と答えた方に) あなたが避難しなかった (できなかった) 理由は何ですか。(複数可)



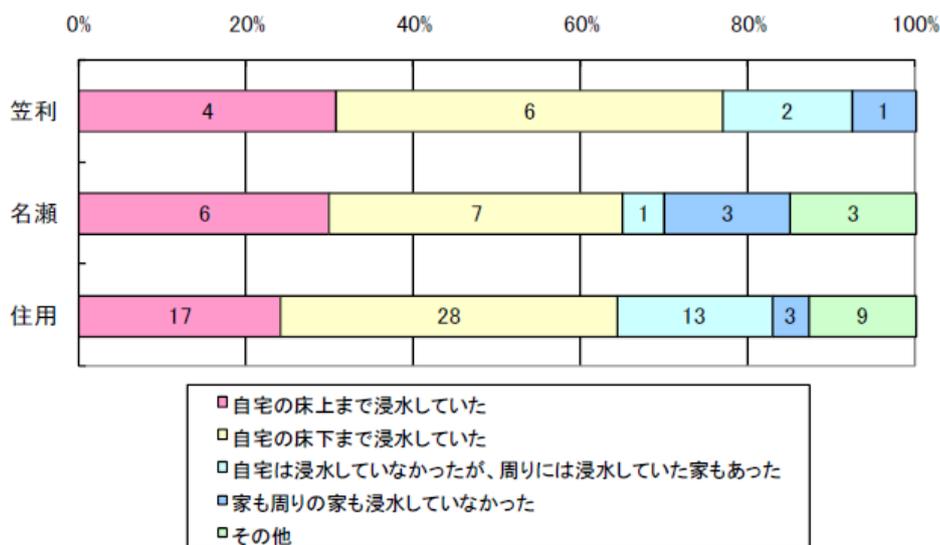
避難をしなかった理由としては, いずれの地区でも, 自宅は浸水しないと思ったとする回答者が最も多い。また, 周囲の浸水などにより, 避難所までの経路の危険性を挙げる回答者も, 住用地区・名瀬地区では少なくない。

附問 19-3. (問 19 で「2」「4」と考えた方に) あなたが避難をした、一番のきっかけは何でしたか。



避難をした回答者が、その一番のきっかけに挙げた要因は、いずれの地区でも自宅の浸水を挙げる者が最も多く、これに次いで自宅周辺の浸水を挙げる者が多い。その一方で、避難勧告の発令を挙げる者は1割に満たない。

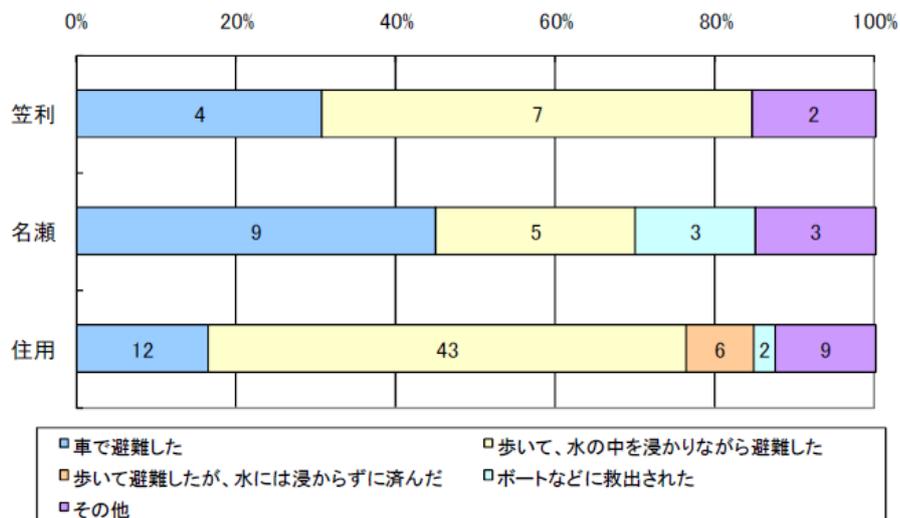
附問 19-4. (問 19 で「2」「4」と答えた方に) 避難を始めたときは、どのような状況でしたか。



避難を始めた段階では、自宅の浸水が始まっていた者がいずれの地区でも過半数を占める。

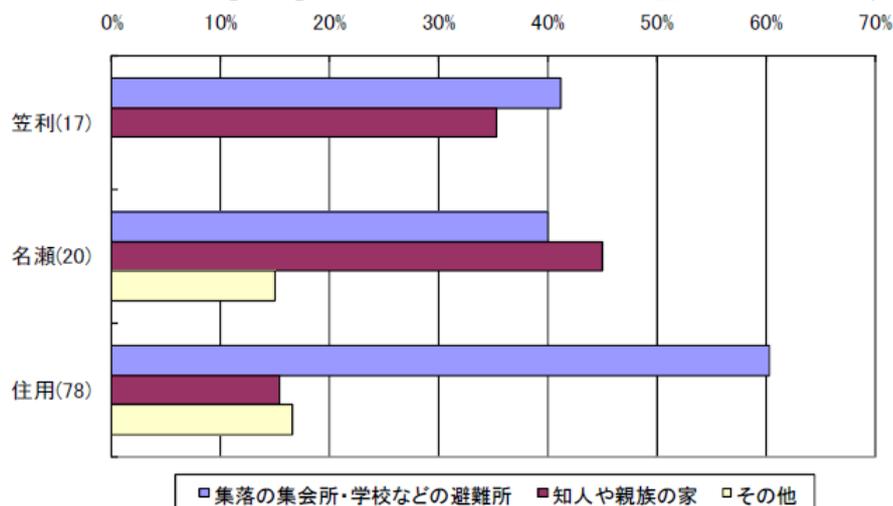
7. その他関連資料

附問 19-5. (問 19 で「2」「4」と答えた方に) あなたは、どのようにして避難しましたか。



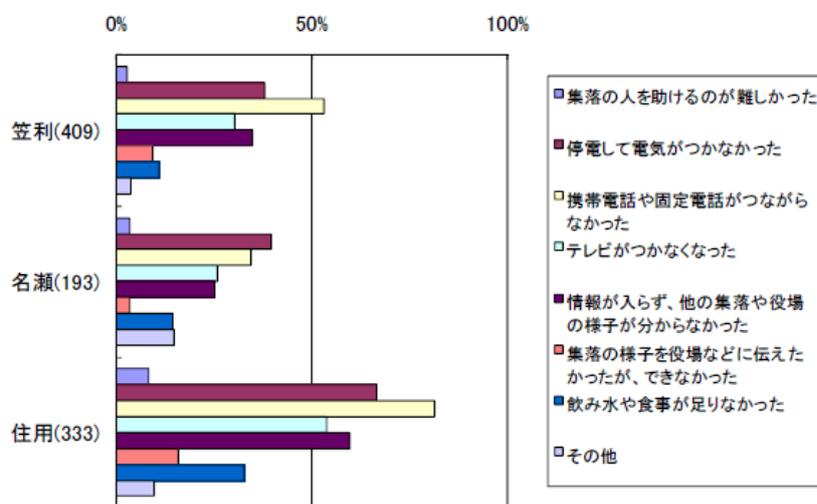
避難手段としては、住用地区では、歩いて避難した者が7割程度を占め、全体の1割程度の者は、水の中を歩きながら避難していた。

附問 19-6. (問 19 で「2」「4」と答えた方に) どこに避難しましたか。(複数可)



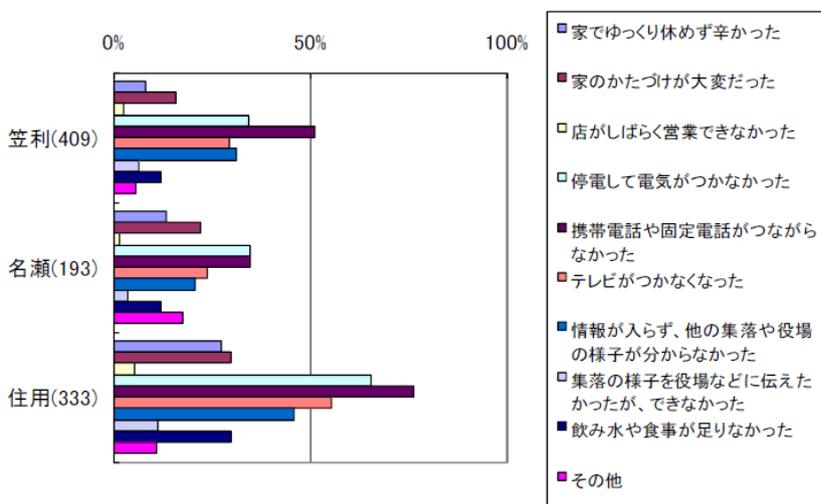
避難先としては、住用地区では、集落の集会所や学校など避難所に避難した回答者が大半を占め6割に及ぶ。笠利地区、名瀬地区で避難した回答者では、避難所に行った者と、知人宅等へ行ったものがほぼ同数であった。

問 20. 水害の起きた 20 日から 21 日の朝にかけて、どのようなことに困りましたか。
(複数可)



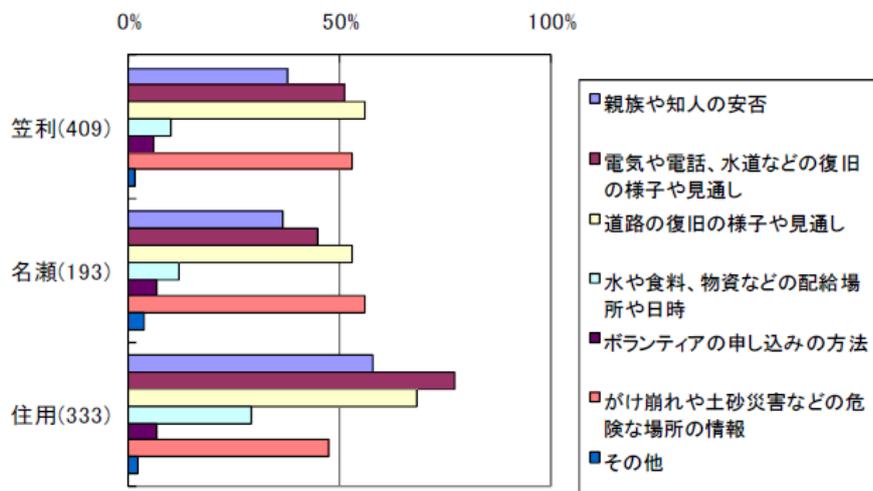
水害の起きた直後に困ったこととしては、停電や、電話が繋がらないこと、他集落の状況がわからないなど、情報孤立の問題を挙げる回答者が多い。

問 21. 水害の起きた翌日の 21 日以降は、どのようなことに困りましたか。(複数可)



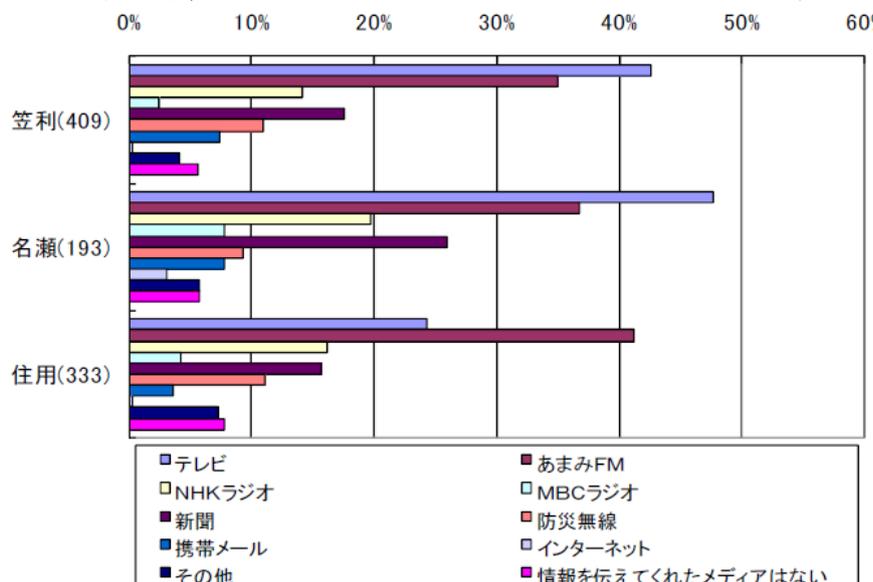
水害の翌日以降の課題についても、電話が繋がらず情報の入手・交換が困難であったことを挙げる者が多い。

問 22. 今回の豪雨災害の直後に、知りたかった情報は何ですか。(複数可)



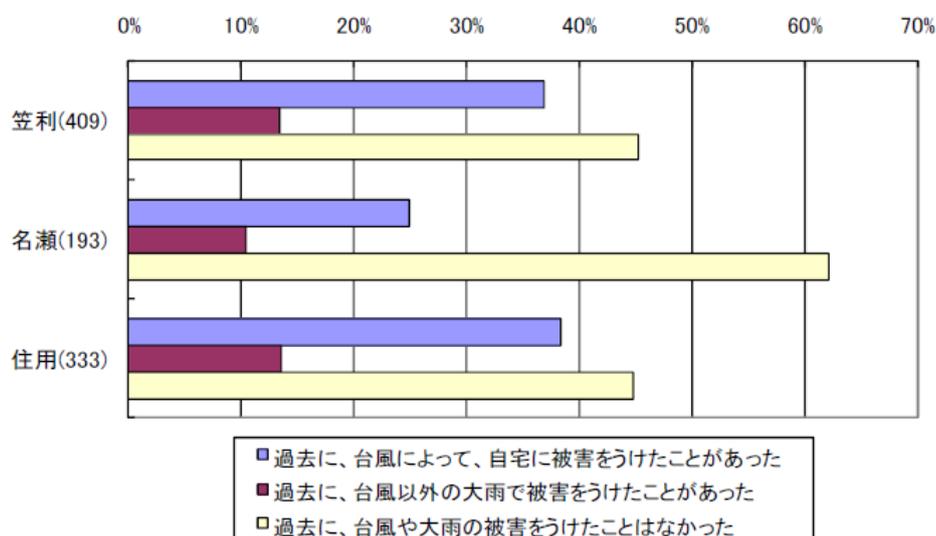
水害の直後に知りたかった情報としては、いずれの集落でも、電気や水道、道路などの復旧状況の見通しが最も多く、これに親族・知人の安否が次ぐ。

問 23. そうした情報を、よく伝えてくれたメディアは何でしたか。(複数可)



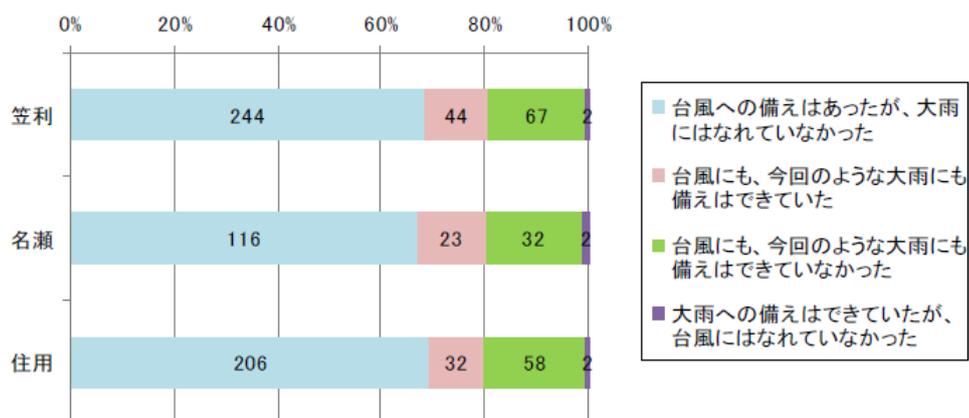
知りたかった情報をよく伝えてくれたメディアとしては、住用地区では、あまみFMを挙げる者が最も多く4割を超える。名瀬地区、笠利地区では、テレビを挙げる者が最も多く4割強に達するが、次いで、あまみFMを挙げる者も多く4割弱に及ぶ。

問 24. あなたの今の家は、過去に台風や大雨による被害を受けたことがありますか。
(複数可)



過去の被災経験を尋ねると、住用地区及び笠利地区では4割近くの回答者、名瀬地区では2割強の回答者が、過去に台風によって自宅被害を受けていた。

問 25. 昨年10月の豪雨災害の前の、あなたの、災害への備えに一番近いもの一つを選んでください。



今回の水害以前の災害への備えについて尋ねると、いずれの地区でも、台風への備えはあったが、今回のような大雨には慣れていなかったとする者が最も多く約7割に達する。

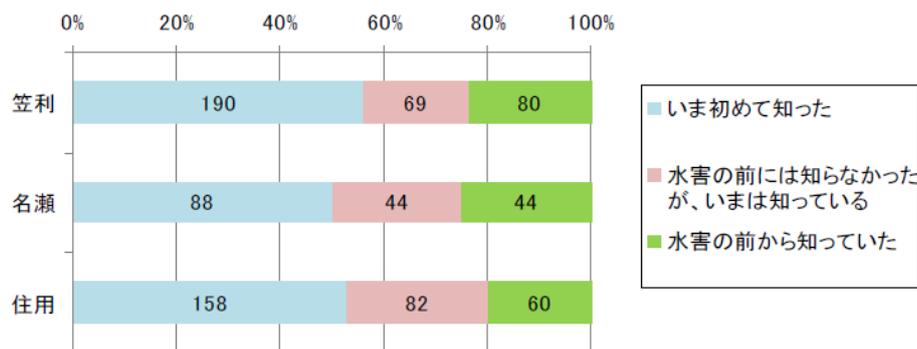
7. その他関連資料

問 26. 昨年 10 月の水害前に、ハザードマップを見たことがありましたか。



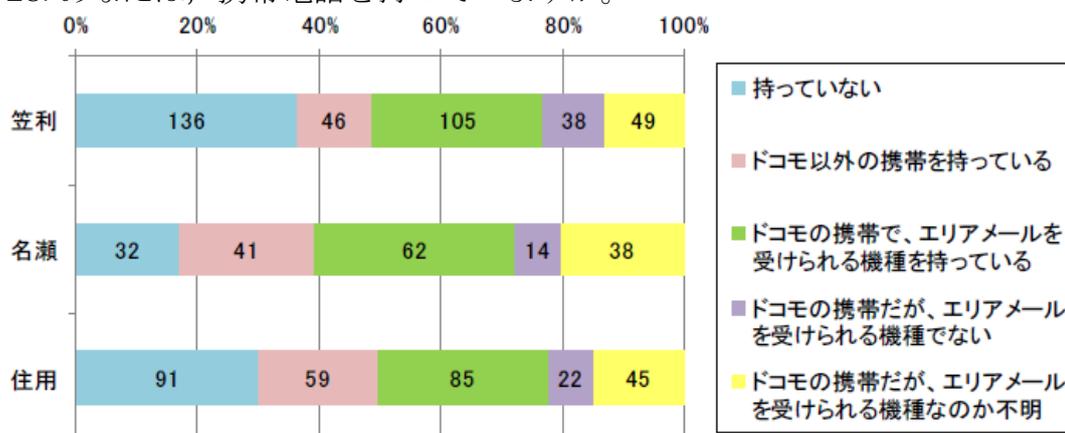
水害前のハザードマップの認知状況をみると、見て自宅の様子まで確認していたものは、いずれの地区でも 1 割程度にとどまっている。

問 27. NTT ドコモの携帯電話の新しい機種には、市役所からの防災情報を、ふだん見聞きしたことのない警告音や画面表示で、一斉に伝えることができます（エリアメール）。あなたは、このことを知っていましたか。



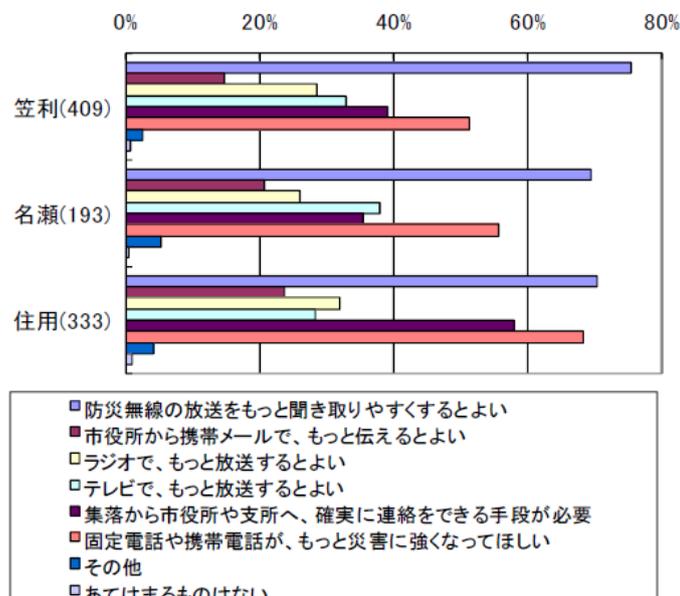
市の加入しているエリアメールサービスについて、水害前から知っていた者は、いずれの地区でも 2 割程度にとどまっていた。

問 28. あなたは、携帯電話を持っていますか。



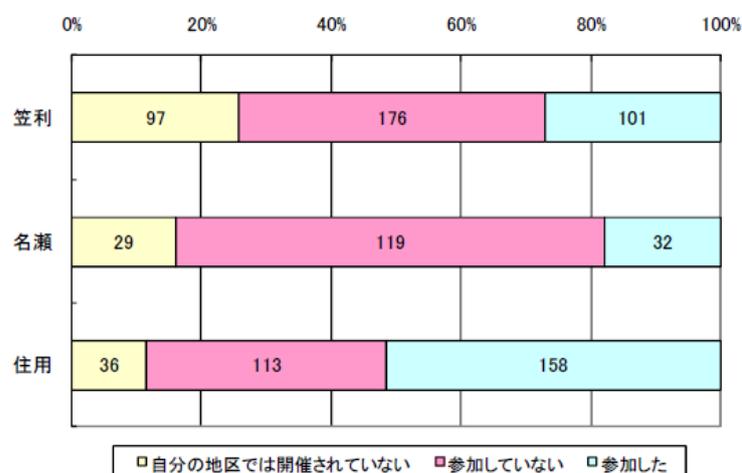
エリアメールに対応した NTT ドコモの携帯電話を所有している回答者は、3 割弱程度におよぶ。

問 29. 情報の伝達や共有のしくみについて、あなたの考えに近いものを教えてください。(複数可)



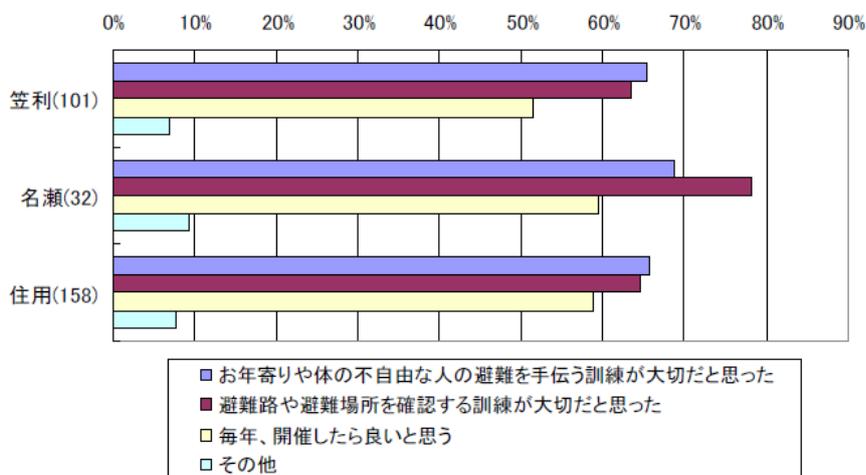
防災情報伝達や共有についての意見を尋ねたところ、いずれの地区でも最も多い要望は防災無線の放送を聞き取りやすくすることで約7割におよび、次いで電話の対災害性の強化を望む者が多かった。また、集落から役場等への連絡を行う手段の確保についても要望が多く、とくに住用地区では6割近い。

問 30. あなたは、今年(2011年)5月の防災訓練に参加しましたか。



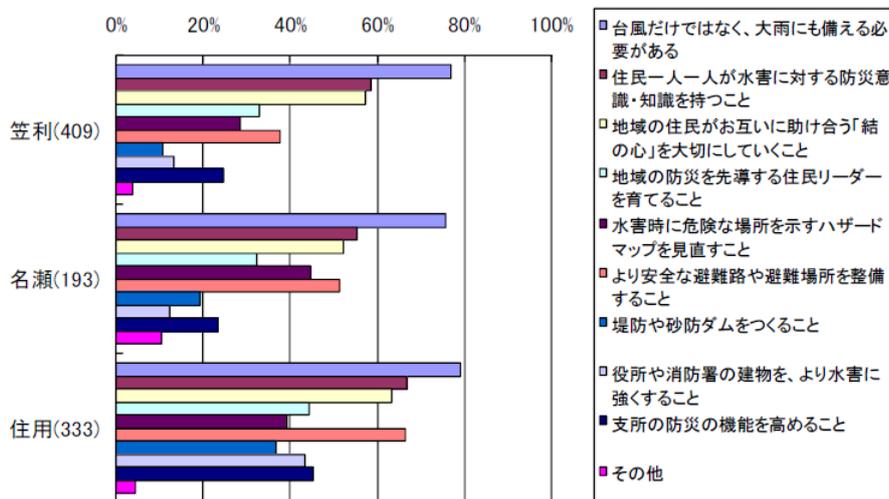
2011年5月に開催された防災訓練へ参加した回答者は、住用地区では約半数に達し、笠利地区および名瀬地区でも2割に及ぶ。

附問 30-1. (問 30 で「3」とお答えの方に) 訓練に参加してどのように思いましたか。
(複数可)



訓練に参加した者に意見を尋ねたところ、いずれの地区でも、高齢者や障害者への避難支援が大切とする者も、避難路や避難場所の確認が必要とする者も、6割を超えた。

問 31. 今後の水害対策として、何が必要だとお考えですか。



今後の水害対策として必要なことを尋ねたところ、いずれの地区でも、台風だけではなく大雨に備える必要性を挙げる者が最も多く約8割にのぼる。これに次いで、住民一人一人の意識向上、地域での助け合い、避難路や避難場所の整備を挙げる者が多かった。その一方で、砂防ダム等の建設を挙げた回答者は、相対的に少なかった。

問 32. 昨年の災害を経験して、防災対策に関する要望や、ご自身で得られた教訓などがありましたら、どんなことでも結構ですのでお聞かせください。

情報伝達改善を望む、下記のような回答が多くみられた。

- ・ 防災無線の音質改善
- ・ コミュニティ FM の有用性の指摘、聴取エリアの拡大
- ・ エリアメールの活用
- ・ 電話網の対災害性の強化

- ・ 当時家にいたが、テレビはつかない、電気、水道も使えない、携帯も、周囲の情報も得られない状態だった。避難をするべきなのかもわからなかった。早めに教えてもらわないと、小さい子どもがいるので、不安。(情報の)伝達に力を入れるべきだと思う。
- ・ 防災無線の放送を聞き取りやすく。
- ・ 防災無線より確実な伝達方法を考えてもらいたい・携帯電話のアンテナ強化をしてほしい。
- ・ 情報が少ない、FM 放送の受信設備を急いで準備すること。
- ・ 防災ラジオの必要性。FM は喜瀬は入りにくい。車なら OK 情報は区長に、区長より集落内に伝わるのが一番確実。

安全な避難場所・避難経路の確保を望む、下記のような回答も多くみられた。

- ・ 安全な高台における避難所の整備
- ・ 地震津波災害に配慮した避難場所の確保

- ・ 避難場所の公民館が床上浸水するぐらいなので、高台に避難場所がほしい。
- ・ 避難場所（生活館）が水害にあったので、集落の高台に避難場所を作ってほしいと思いました。
- ・ 集会所（公民館）の周辺も浸水して危険でした。安全な避難場所がないと思いました。情報が、入ってこない。電気が止まると、弱い。電話も携帯も使えなくなるとお手上げ状態でした。
- ・ 衛星電話などを設置するか所がほしい。
- ・ 避難場所（公民館以外）を定めて経路等を決めておく必要と思う。
- ・ 豪雨に対しても、ですが、地震による津波警報が出た場合、どこへ逃げたらいいのか知りたいので、避難マップが欲しいです。それと、避難ルートの整備が必要と思います。

河川整備など、インフラの補強に関する要望も見られた

- ・ 護岸工事など
- ・ 道路の補強

- ・ 河川の護岸工事を早く着工して安心して過せる様にして下さい。河川の整備をもっと徹底してください。
- ・ 早く、川の中の土砂を取り除いてください。おねがいます。雨が降れば、心配で寝る事もできません。

7. その他関連資料

- ・もっと自然，森をたいせつに，自然をいじりすぎ。
- ・防災に強い交通路を道路を整備してほしい。

自助の重要性を指摘する，下記のような回答も多くみられた

- ・早期の避難の必要性
- ・防災用品の備蓄

- ・自分の身は自分で守る防災意識を持つことが大事である。
- ・人をたよらず自分で早めにひな人をすべきです。
- ・行政に甘えないで各自が防災意識を持つこと。
- ・早めの避難をする。防災バッグを準備しておく。貴重品をまとめておく。周囲の人たちを気にかける。
- ・自宅や車に非常持ち出し袋（特にラジオ）を用意しておくべきだと思った。
- ・避難路，避難場所を個人ごとに確認すること。自分自身の身は，自分で守り，お年寄りや，体の不自由な人を手伝えることが大切。

(2)奄美豪雨災害に関する報道記事

▼南海日日新聞（平成 22 年 10 月 21 日掲載）



▼奄美新聞（平成 22 年 10 月 21 日掲載）



▼日本経済新聞(平成 22 年 10 月 22 日掲載)

▼南日本新聞(平成 22 年 10 月 22 日掲載)

奄美、孤立2000人超か

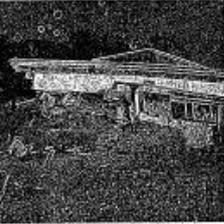
豪雨の死者3人に

通信網復旧、メド立たず

1万2000回線が一時不通に

奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。

奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。



奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。

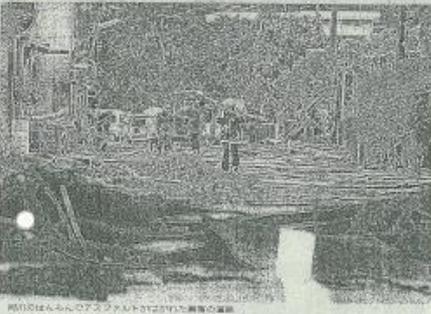
避難勧告2600人超

奄美豪雨死者3人に

被害把握なお難航

県が災害 被害把握なお難航

奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。



奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。

▼読売新聞(平成 22 年 10 月 22 日掲載)

▼西日本新聞(平成 22 年 10 月 22 日掲載)

救出活動 拒む荒野

奄美豪雨ルボ

避難高齢者 体力限界

濁流 一気高齢者のむ

2人死亡

奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。



奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。

未知の大雨 想定外

総雨量 長崎大水害の2倍

避難時間 予測超え

ソフト対策重要

奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。



奄美群島の豪雨被害が深刻化している。22日朝時点で、奄美群島の通信網がほぼ完全に断絶し、約2000人以上が孤立している。また、豪雨による死者が3人に達した。通信網の復旧は遅く、メド立たず、1万2000回線が一時不通に陥った。

(3)地域からの声

知名瀬町内会 会長 屋島良幸さん

平成 22 年 10 月 20 日の奄美豪雨災害では、我々知名瀬地区も未曾有の被害（半壊 39 戸，床上浸水 4 戸）が発生しましたが，1 人のけが人も出なかったことは日頃からの自主防災への取り組みと地域のつながりの力が発揮されたものであると考えています。



災害発生時，町内知名瀬川上流が氾濫した影響で集落内のグループホーム虹の丘周辺が冠水し，まず認知症の高齢者を抱きかかえて搬送，その後，さらに水位が増したのでカヌーとサバニ船を使い，支えながら公民館まで避難支援を行いました。これは日頃から当該施設と防火訓練等を連携・実施していたことから連絡体制等が確立できていたため，円滑な避難支援が可能であったと考えています。

この経験を踏まえ，地域ぐるみで防災に取り組む姿勢が一層強くなったほか，町内にあ
る災害時要援護者施設 3 施設との連携を一層図っていこうと取り組んでおります。

今後は，現在の自主防災組織の体制を，4，5 戸単位で災害時要援護者を細かくフォローできるように検討していくことと，地震・津波に備えた海拔表示板を現行の 6 箇所から 20 箇所程度まで独自に増やしていくことを検討しており，より安全・安心で住みよい知名瀬町内会の実現に努めていきたいと考えております。

西仲間集落 囑託員 満永健一郎さん

100 年に一度といわれる奄美豪雨災害において，住用川に隣接する当集落では住用川や冷川の氾濫により甚大な被害を受けました。



災害発生により尊い 2 名の命を失ったことに加え，床上浸水 53 軒，床下浸水 15 軒など平成 2 年の台風 19 号での災害を上回る被害を受けたほか，通信設備の被害により行政はもとより特別養護老人ホーム住用の園，グループホームわだつみ苑との情報伝達が途絶えるなど，地域住民にとって不安な時間を過ごしたことは今でも忘れることができません。

奄美豪雨災害以降，当集落では自主防災組織を設立し，防災訓練や災害図上訓練，要望活動，災害時要援護者のマップ作成等，防災・減災活動に力を入れてまいりました。

今後は自主防災組織を通して，「自分たちでできることは自分たちでやる」，また，「地域コミュニティで支え合い集落の災害に対する問題解決」等，自助・共助の意識を高め，行政との連携を密にしながら防災体制の構築に努めてまいります。

奄美市笠利町佐仁1区集落 区長 前田和郎さん（写真右上）

奄美市笠利町佐仁2区集落 区長 竹田洋二さん（写真右下）

奄美豪雨災害では、佐仁1区集落、佐仁2区集落においても甚大な被害を受けました。

今回の災害では、私たちが経験したことがない「通信網が使えない」「道路の寸断」など行政はもちろどこにも連絡ができない状態でありました。

その中でも、山崩れが発生し集落を流れている佐仁後川をせき止められ、川が氾濫し集落内に流れ込み、急激に水位が増しました。

当集落では、特にお年寄りが多いため集落内で床上浸水となった家屋のお年寄りを集落の消防団や青年団が協力しボートで救助し福祉館まで搬送することができました。

また、公民館で避難された方のために婦人会の方々が家庭から物資や炊き出し等の協力もあり、こういう時こそ住民の協力・助け合いが必要だと感じました。

豪雨災害以降、住民の方々も災害に対する意識が高まっており、年一回集落全体での防災訓練を実施したり災害等が発生しそうなときは、早めに公民館を開放し早めの避難を心がけています。

今後、佐仁1区、佐仁2区で協力し合い、集落全体で災害に対する対応ができるようにしていきたいと考えております。



(4)表彰関係

奄美豪雨災害時には「結いの精神」に基づく地域・集落の互助活動等が高く評価された。また、あまみ FM の活動も全国的に取り上げられた。これら奄美豪雨災害時に行われた活動に対し多くの団体等から表彰や感謝状等を受けているが、ここでは国・県等からの表彰について記載する。

○知名瀬防災会

平成 24 年度 防災功労者防災担当大臣表彰（内閣府）

平成 23 年度 鹿児島県防災功労団体表彰（鹿児島県）

○特定非営利活動法人ディ

第 20 回 中央非常通信協議会表彰（総務省）

平成 23 年度 土砂災害防止功労者表彰（国土交通省）



(5)過去の主な災害

1778年9月27日 (安永7年)	大風・奄美大島 大島代官記<大島私考> 大風が二度，八月七日・八日に大風があつて，高蔵が三百三十六 倒れ，馬が二頭死んだ。板附船が二十八艘流失した。
1781年9月 (天明元年)	大風・奄美大島 大島代官記 稀なる大風があり，島中で家数凡そ二百軒余を吹き崩した。
1823年 (文政6年)	洪水・大島 大島代官記 西間切と東間切が洪水で岩が崩れまして，田畑が沢山破損しまし た
1832年10月4日 (天保3年)	大風・奄美大島 大島代官記 九月十一日，稀なる非常の大風で諸作物が大いに傷んだ
1901年6月24日 (明治34年)	地震（マグニチュード7.5） 北緯28度，東経130度を震源とする地震が発生。名瀬で震度5。 被害少なく，名瀬付近で石垣の崩れた程度の被害。宮崎県細島で 最高7～8寸（21～24cm）の津波が到達したが奄美大島沿岸での 津波は不明。
1911年6月15日 (明治44年)	喜界島地震（マグニチュード8.0） 北緯28度，東経130度を震源とする地震が発生。喜界島で被害 大きく，奄美大島，徳之島をはじめ，沖縄島，宮崎県下でも被害 があつた。総被害は死者12名，家屋全壊422，半壊561
1960年5月24日 (昭和35年)	チリ地震津波 南米チリ沖で発生した地震（マグニチュード9.5）に伴う津波が日 本各地の沿岸に襲来。名瀬で440cmの津波が観測された。
1970年1月1日 (昭和45年)	地震（マグニチュード6.1） 北緯28度4分，東経129度2分で発生した地震。名瀬市，大和

1970年8月13日 (昭和45年)	<p>村に被害多く負傷5, 全体で住家一部破損1462, その他道路, 橋, 水道, 港湾, 通信施設に被害</p> <p>台風9号</p> <p>名瀬で最大瞬間風速78.9m/sを観測</p>
1990年9月18日 (平成2年)	<p>台風19号</p> <p>奄美群島で死者13名, 負傷者49名, 住家の全壊155棟, 半壊557棟, 一部破損2198棟, 床上浸水467棟, 床下浸水958棟の被害等, 合わせて約154億77百万円の激的な被害が発生した。</p>
1995年10月18日 (平成7年)	<p>地震・津波 (マグニチュード6.7)</p> <p>北緯27度54分, 東経130度36分を震源とする地震が発生。喜界島で最大遡上高2.7m, 現地調査の聞き取りにより奄美本島で1m前後の津波が到達。</p>
2010年10月20日 (平成22年)	<p>平成22年10月奄美豪雨災害</p> <p>本稿記載のため省略</p>
2011年9月25日 (平成23年)	<p>平成23年9月豪雨 (奄美北部豪雨災害)</p> <p>奄美市と龍郷町で死者1名, 住家全壊4棟, 半壊120棟, 一部損壊1棟, 床上浸水145棟, 床下浸水445棟の被害を受けた。</p>
2011年11月2日 (平成23年)	<p>平成23年11月豪雨 (奄美南部豪雨災害)</p> <p>奄美市と瀬戸内町で住家半壊145棟, 床上浸水105棟, 床下浸水465棟の被害を受けた。</p>
2012年8~9月 (平成24年)	<p>台風15・16・17号</p> <p>暫定値として, 台風15~17号の間, 奄美市のみで死者1名, 住家全壊1棟, 半壊17棟, 一部破損622棟, 床上浸水46棟, 床下浸水71棟の被害を受けた。</p>